

コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、 PTA、家庭教育に関する参考事例集

コミュニティ・スクール	… P. 2～6
地域学校協働活動	… P. 7～10
PTA	… P.11～14
家庭教育支援チーム	… P.15

【事例】CSによる「社会に開かれた教育課程」の実現（茨城県牛久市）

茨城県牛久市立の小中学校では、学校運営協議会委員が授業研究に参画することで、学校教育に対する理解を深め、教育課程を通して子供たちに身に付けさせたい資質・能力を熟議することにより、「社会に開かれた教育課程」を実現している。

取組に至った背景

- ◆牛久市では、コミュニティ・スクールを導入するも、地域が具体的に何をすればよいのか、学校・地域ともにイメージを持っていないことが課題だった。
- ◆児童生徒の実態や教師の多忙さを地域の方に説明しても、十分な理解が得られなかった。

特徴的な取組

- ◆校内授業研究会などの機会に協議会委員が授業を参観し、授業参観後には協議会委員が教師と共に授業を振り返る研究協議を設けることで、指導法の意図や子供の実態についての共通理解を図る。
 - ➡授業内における子供同士の関わり合い方や、ノートの記載内容等について、教師と違った視点を含めた研究協議は、学校にとって貴重な機会。
- ◆学校運営協議会において、学校の教育目標と地域の課題解決を柱とした熟議により、教育課程の検討を行う。
- ◆子供に育てるべき資質・能力や地域の課題について、学校と地域が相互に理解した上で、様々な地域学校協働活動を展開。
 - ➡子供の学びと地域課題の解決の両立を目指した取組となった。
- ◆一部の協議会では、卒業生（大学生）が委員として参画。
 - ➡若者の視点を取り入れたことで熟議の活性化につながった。

成果・効果

- ◆地域住民の学校教育に対する理解が深まったことで、学校の現状や課題を踏まえた議論が可能となり、「社会に開かれた教育課程」を実現。
 - ➡子供の学びが地域の活性化につながる「学校を核とした地域づくり」へ。
- ◆授業づくりのサイクルに協議会委員も参加し、教師の授業力向上に貢献。
 - ➡質の高い学びにつながり、子供たちの学力向上にも寄与。

牛久南中学校での実践



協議会委員が校内研究授業に参画することで、子供たちの学びの実態について理解を深める。



授業のねらいや子供たちの様子について学校と地域が共通理解した上で、子供たちに身に付けさせたい資質・能力や地域学校協働活動の在り方等について熟議。



熟議の結果を踏まえ、子供たちが地域住民と一緒に地域活性化に向けて取り組む内容を、総合的な学習の時間の探究課題に設定し、単元を計画。



地域の思いや願いに触れた子供たちは、主体的に地域活性化に寄与する様々な取組を実践。地域に貢献することによって味わうことのできるやりがいや喜びを学んだ。

市内校長の声

- 学校と地域の連携・協働が進むにつれて、地域の方を講師とした授業が、講義形式から課題解決型に変容するなど、子供たちの学び方が変わっていきました。
- 植物栽培の技術指導や、教材としての企業関係資料の提供など、地域の方が授業づくりに協力して下さることで子供たちの学びの質が高まっています。

岡山県浅口市では、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を活用し、育てたい子供の姿や学校・家庭・地域の課題を共有したうえで、**学校業務の棚卸し**に取り組むとともに、学校・家庭・地域の役割分担と連携・協働を進め、**教職員の意識改革や教育の質の向上**など、**学校の働き方改革を推進**

方針・目標の設定

取組の実践（コミュニティ・スクールと地域学校協働活動）

働き方改革への効果

鴨方東小学校

業務改善

- 業務内容の棚卸し
- コミュニティ・スクールの設置
- 校務分掌の新体制化 など

時間改善

- 時間管理のカエル5
- 職員会議・終礼改善
- 勤務時間の記録 など

環境改善

- 職員室の機能的なレイアウト
- 人間関係・同僚性の構築 など

寄島小学校

チームによる対応

- チームリーダー教員を中心に取組を企画・検討し、学校運営協議会を活用して、評価・改善を推進

① 業務内容の棚卸し

- ▶ **コミュニティ・スクールの導入により、保護者や地域と協議し、共通理解のもとで業務の見直しを進めることが可能に**

（例）教職員、保護者、地域住民で熟議を実施。参加者が共通理解した上で、業務の廃止・簡略化を検討
→ できる改善から速やかに着手



熟議の様子

② 教育活動の再整理・再認識

- ▶ **熟議の過程で、教員自身が教育活動の目的や必要性を再整理・再認識し、業務の見直しや意識改革につながる**

（例）見直し：一律の家庭訪問を廃止し、希望懇談制に変更
充実：教職員チームによる地域の危険箇所等のパトロールを強化

③ 地域と連携・協働した活動の実践

- ▶ **保護者や地域との共通理解・信頼関係のもと、地域学校協働活動を実施することで、教育の質の向上、教員の負担軽減に**

（例）コーディネーターの一人（主任児童委員）が、不登校児童に対して地域の立場からサポート
→ 担任の業務負担と負担感が大幅に軽減

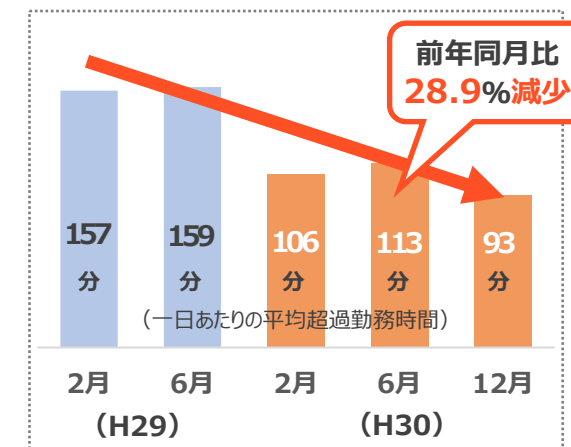
「学校運営協議会の協議・決定は、**保護者や地域のお墨付きのようなもの。より積極的な改善も可能**となる。実際に、改善実践後に保護者や地域からの後ろ向きな意見はほぼなかった」（校長）

「困ったときに、**地域に気軽に相談できる。こんなありがたいことはない**」（教頭）

業務の精選や教職員の意識改革に効果

教職員アンケートの項目	割合（％）
退校時刻面で効果があった	88.8
働き方に関する意識が変わった	88.8
タイムマネジメント面で効果があった	86.3
業務や会議が減った	81.3
授業準備・学力向上に関わる時間が増えた	77.5
精神的にゆとりができた	72.5

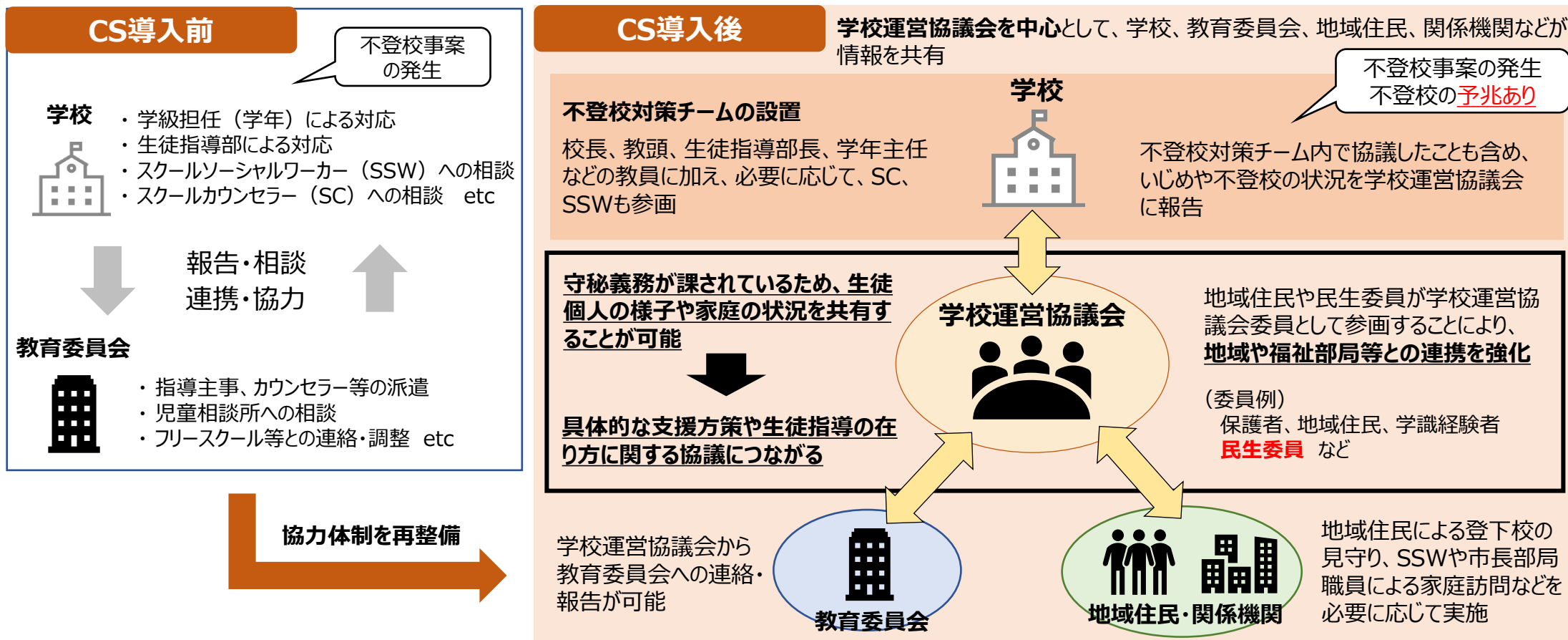
（鴨方東小学校資料より作成）

教員の一日あたりの**超過勤務時間**が減少

（鴨方東小学校資料より作成）

【事例】CSを活用した不登校対策の取組（北海道登別市）

北海道登別市では、コミュニティ・スクールの導入を契機に、保護者・地域住民等を含めたチームとして不登校対策に着手。学校運営協議会の組織を生かし、多様な関係主体との円滑な情報共有や連携・協働により、新たな不登校の発生を抑えることができています。



登別市の不登校児童・生徒数の推移

CS導入後、5年間で約3割減少

	CS導入前			CS導入後				
	H23	H24	H25	H26	H27	R28	R29	H30
小学校（人）	6	7	8	5	4	1	2	1
中学校（人）	30	26	25	23	22	18	19	21
合計（人）	36	33	33	28	26	19	21	22

成果・ポイント

- ・学校運営協議会で個人名を出して報告することにより、**当該児童生徒やその家庭と関わりがある委員から新たな情報を得たことで、教職員が即時かつ適切に保護者に関わったり、支援策を講じたりすることができた**
- ・また、学校運営協議会委員からは「当該児童生徒の家庭と関わる機会があれば、情報を提供する」「町内会行事や登下校時に児童生徒の様子を観察する」などの申し出もあり、**学校と地域住民等がチームとして不登校対策に取り組む体制を構築することができた**

【事例】町ぐるみで若者の地元定着を図るCSの取組（鳥取県南部町）

鳥取県南部町では、学校運営協議会を全ての中学校校区に設置し、学校・家庭・地域が育てたい子供像や目指すべき教育のビジョンを共有。「地域とともに歩む学校づくり」により、町ぐるみで若者の地元定着を図っている。

背景・取組概要

- ◆子供たちが地域と関わる機会や、ふるさとを知り学ぶ機会の減少、若者の転出者の増加などに課題。
- ➡地域の協力のもと、郷土の自然や歴史・文化を学ぶカリキュラム「まち未来科」を生活科・総合的な学習の時間に設定。子供たちがふるさとに愛着をもち、未来を生き抜く力の育成を目指す。

工夫・ポイント

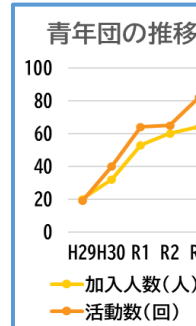
- ◆年長から中学3年までの10年間を通して、各校区の特徴を活かした一貫したカリキュラムを設定し、学年ごとの目標・テーマに沿った体系的な学びを実現。
- ◆中学校校区の学校運営協議会の下部組織として、各学校別に「CS委員会」を設置し、子供や学校の実態に即した熟議や活動を実施。

特徴的な取組

- ◆地域の方を講師とした「特産物」や「伝統文化」の授業を実施。
➡子供が楽しみながら文化を継承し、高齢者の生きがいにも寄与。
- ◆夏祭りやバザー等の地区行事で子供たちが活躍できる場を作る。
➡地域での良い思い出を作ること、郷土愛を育む。

成果・効果

- ◆地域の子供を地域全体で育てる意識の醸成。
➡地域学校協働活動に高校生や帰省した大学生も参加。
- ◆地域について学び、地域の中で育ってきた子供たちが、中学校卒業後も継続して地域とつながる仕組みとして、高校生サークルや青年団を組織。
➡地域の担い手、地域を盛り上げる人材としての活躍に期待。

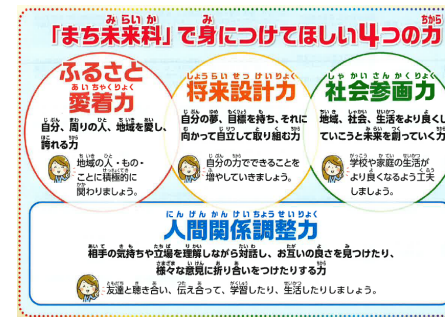


町議会議員と意見交換する青年団と高校生サークル



多世代が多目的に交流できる町立施設「キナルなんぶ」

10年間一貫したカリキュラム「まち未来科」



「まち未来科」各学年の目標

学年	ふるさとと愛着力	将来設計力	社会参画力	人間関係調整力
低学年	「ふるさと」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「将来」の夢や希望について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「地域」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「自分」や「家族」の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。
中学1年	「ふるさと」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「将来」の夢や希望について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「地域」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「自分」や「家族」の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。
中学2年	「ふるさと」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「将来」の夢や希望について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「地域」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「自分」や「家族」の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。
中学3年	「ふるさと」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「将来」の夢や希望について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「地域」の自然や文化、歴史や産業について、自分や家族の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。	「自分」や「家族」の生活とのかかわりについて、興味・関心をもち、学ぶ。

身につけてほしい4つの力 × 各学年の目標
育みたい力、学年ごとの目標・テーマを設定。
子供や地域とねらいを共有し、取組に見通しを持たせる。

まち未来会議

中学3年時に学びの集大成として、南部町のよさや課題に目を向け、町が抱える課題を解決し、さらに魅力的な町づくりを図るというねらいのもと、地域の様々な立場の人と語り合う「まち未来会議」を開催。



特定のテーマに重点を置いたコミュニティ・スクールの導入事例（熊本県）

熊本県では、熊本地震の経験を踏まえ、災害時の対応が円滑に進むよう、県立高校に「防災」に重点を置いたCSを導入し、地域と学校の連携・協働を進め、地元自治体（市町村）との避難所指定の協定締結を進めるとともに、地元住民との合同防災訓練など、地域と一体となった取組を実施。現在は全ての県立高校で防災に限らず、実情に応じた多様な取組が進められている。

背景・取組概要

熊本県では、平成28年(2016年)4月の熊本地震において、市町村との避難所指定の協定の有無に関わらず、多くの県立高校が避難場所となり、

- ・避難所運営に係る体制（教職員の役割など）が明確に整備されていない
- ・トイレや空調などの設備や備蓄品などが不足

などの課題に直面した経験から、地域と一体となった防災体制の構築に向けて、「防災」に重点を置いたコミュニティ・スクールを導入

工夫・ポイント

- ◆ 学校運営協議会の委員に、関係機関職員や自治体職員など防災の専門家を任命
- ◆ 学校運営協議会の承認事項に、防災教育や県立高校を中心とした地域防災に関する事項を追加することで、学校運営協議会を活用して、関係者が学校だけでなく地域全体の防災の課題などを共有



特徴的な活動

- ◆ 専門家や地域の意見を踏まえた学校防災マニュアルの策定
- ◆ 地元市町村との避難所指定の協定締結
- ◆ 学校と地域の合同防災訓練や避難所運営シミュレーション等の実施



関係者の声

(学校)「地域と合同で防災訓練を実施することで、生徒及び教職員の意識が高まった。」
(地域)「高校生が地域を学び、地域と関わることで、地域への愛着心や防災への認識も深まる。」
(生徒)「災害が起きた時に、私たち高校生が地域の方々を助けられるように取り組んでいきたい。」

- ◆ CS導入状況（県立高校）
H28: 2校 → H29: 50校（100%）
- ◆ 避難所指定の協定締結数
42校（R6年1月時点）

多様な経歴を持つ7名のCNが連携し、地域学校協働活動の年間計画に沿って教育課程内外の活動を支援する。また管理職や主幹教諭が、教員とCNとのスムーズな連携体制構築をサポートし、経験豊富なCNは、学校側の要望に応えつつ提案も行う、学校経営の強力なパートナー的位置づけとなっている。



基本情報

配置人数	コーディネーター(CN)7名
配置単位	学校専属
任期	1年(再任可)
学校運営協議会	一部CNは委員を兼務

◎活動概要

- 元PTA役員・委員経験者、少年スポーツ教室世話役などの経歴を持つ7名のCNがそれぞれの仕事の状況や、これまでの経験に合わせ、教育課程内・教育課程外・学校教育外・地域主体の活動という4つのプロジェクトで活動している。年度初めに教員と確認した年間計画・方針を基に、活動を行う。CNが活動の記録を残すことで、教員異動があっても、毎年活動が引き継がれる形となっている。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 教育課程内の活動としては、キャリア教育、日本の伝統・文化理解教育、読書活動など、教育課程外活動としては、朝遊びの見守り、学校教育外活動としては土曜日や放課後の各種イベント運営等がある。
- 学校からの要望への対応とCNからの提案を織り交ぜ活動を行う。例えば、学校・学校運営協議会から、子どもたちが主体となり、子どもたちの考えに基づき学習するという方針の提示を受け、方針に沿った授業を進められるようゲスト講師をコーディネートし、授業内容を検討する。

◎活動時に意識していること

- コンセプトは、豊かな体験を通じて「わかった!」「面白い!」を実感できるように子どもたちの活動をサポートすること。
- それぞれの仕事の合間などに、職員室に通い、先生方とコミュニケーションをとり、相談しながら活動を進める。
- 地域と学校のつながりの中で、話しやすい環境づくりを大事にしており、地域からも感謝される関係となるよう心がけている。

◎管理職や主幹教諭が教員とCNのスムーズな連携を促進

- 教員とCNがスムーズに連携できるよう、管理職や主幹教諭が仲立ちとなり、コミュニケーションの場の設定や、日程・活動場所の調整などを行うほか、他地域から来た先生方にもCNへの依頼を促す声かけを行うなどしている。

◎学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進

- 学校運営協議会では、校長から学校の動向や方針を示し、それに基きCNが具体的な協働活動の提案を行う。
- 学校運営協議会主催で年1回熟議の場を設定しており、教員30名+CS委員+CN+保護者、合わせて50-60名が参加し、テーマをもとに話し合い、交流を通してつながりを育んでいる。

◎杉並区の充実したサポート体制

- 杉並区では、学校運営協議会を含めて所管する学校支援課を設置しているほか、統括的な役割を果たす地域学校協働活動推進員を公募・委嘱し、各学校単位で活動するCN等地域学校協働活動を行う地域住民等への助言や伴走支援を行う体制を整えている。
- 区がCNの初任者研修等を開催しており、活動内容の理解や仲間づくりを支援し、新規に活動に参加してもらいやすい体制が整っている。
- 教育委員会は財政支援に加え、学校施設及び設備の使用も支援しており、天沼小では職員室からも声をかけやすい場所にある「学校支援本部室」を活動場所としている。活動支援者の場所があることで、ご協力いただく地域の方の来訪もスムーズである。



教員

教員だけで地域の方とのつながりは、カバーしきれませんが、CNの方々は、地域とのつながりが強く、地域のことをよくご存知で、様々な方とつながってください。授業のねらいや講師のリクエストなどを踏まえて調整を行ってくれ、教員にとっても非常に心強い学校経営のパートナーです。

推進員が持続的に活躍できる組織・体制づくり

津島市では、各推進員が相談しながら持続的に活躍できるよう、**各校への推進員の複数配置や、統括的な推進員の配置、計画的な研修の開催、協力人材の確保**に取り組んでいる。市立藤浪中学校では、PTA役員を経験した保護者を中心とした**5名の推進員がそれぞれの強みを活かしながら**、募集チラシの作成、大学生や高校生のボランティアとのマッチングなど、**学習支援教室を自律的に運営**している。



基本情報

配置人数	推進員5名
配置単位	学校専属
任期	2年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- 津島市では市立小中学校全12校において計26名の推進員が活動しているほか、市教育委員会に所属する統括的な推進員が1名配置されている。
- 藤浪中学校では、同校のPTA役員を経験した保護者を中心に、行政職員なども含めた計5名が推進員として役割分担をしながら様々な活動に取り組んでいる。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 学習支援教室「NAMIKA」の運営：月曜日の放課後15時から、中学生の希望者を対象に、大学生・高校生のボランティアによって学習サポートを行う活動の企画・調整・運営。(令和4年度から開始)
- 登下校時の交通安全見守り、中学生に向けてのキャリア教育の企画・実施、中学生をボランティアとして地域に派遣する活動

◎活動時に意識していること

- 学習支援教室など平日・日中の活動が難しいメンバーはPCスキルを活かしてチラシ作成を担うなど、「できることをできる人がやる」を大切に推進員同士で役割分担を意識している。
- 中学校区外の人も活動に巻き込んだり、地域課題(地域イベントの人手不足等)と中学生のボランティア活動をつなげるなど、各推進員が他の地域活動で聞いた話を地域学校協働本部や学校運営協議会に持ち込んで、「活かせるものは活かす」ことを念頭に活動を企画している。

◎推進員が1人で悩まず、相談できる体制の構築

- 津島市では各学校において複数の推進員配置を基本としている。これは、各推進員が様々な場面で「誰に相談したらよいのか？」と困る際に、まずは推進員同士で相談できるようにすることを意図している。
- また、津島市では各地域学校協働本部の本部長や、教育委員会に所属する統括的な推進員が、推進員の相談先として明確になっており、推進員が孤立しなくて済む体制が構築されている。
- この他、年間3回以上の定期研修会を開催し、市内各小中学校で活動する推進員同士が悩みを出し合ったり、対応を熟議したりすることができる機会・時間を設けている。

◎多様な活動を持続的に行うための人材確保

- 地域学校協働活動を行う上では、推進員だけでなく協力者・ボランティアの存在が欠かせないことから、市では市内中学出身の大学生・高校生とのネットワークづくりに取り組んでいる。
- 愛知県及び近隣県の教員養成課程を持つ大学、津島市内に立地する高校に、学習支援や読み聞かせへの参画依頼を行い、令和5年度現在、大学生60名程度、高校生30名程度がボランティアとして登録している。各校の推進員がボランティアと各校の各活動とのマッチングを行っている。



校長

学習支援教室の活動は推進員の方々によって自立的に運営されており、学校の関与は、場所提供と募集のお手伝いくらいです。学校には生徒と教員しかいないのが普通ですが、同教室では推進員がコーディネートした地元出身の大学生や高校生、地域の様々な大人との接点があり、生徒たちは、多様な関わり方を学んでいるように感じています。

探究学習や、地域課題の解決・地域活性化に専門性と経験を持つ推進員を配置し、学校での探究的な学びの企画や、地域との協働体制の構築を進めている。教員の伴走体制や、教員と推進員が互いの専門性を活かした連携や役割分担が、学校と推進員、地域一丸となった探究的学びの推進に大きな役割を果たしている。



基本情報

配置人数	推進員2名
配置単位	学校専属
任期	1年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- 大学時代から地域にフィールドワークに関わり、その後移住を経て継続的に地域活性化に取り組んでいる方が推進員として活動に取り組んでいる。大学での専攻であった地域協働やプロジェクトマネジメント、ファシリテーションの知識と経験、また地域住民や地元企業等とのネットワークを活用し、高校の探究的な学びの推進役として活動を行う。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- 探究学習の統括役である教員と共に、「総合的な探究の時間」をはじめとした生徒の探究学習の企画(年間計画策定やカリキュラム作り)
- 探究学習のための体制構築(地域住民と学校を繋げる際の人選や手配)
- 地域住民同士の繋がり作りによるネットワークの耕し
- その他、教員の負担軽減のための部活動支援や給食指導、学校行事運営のサポートなど

◎活動時に意識していること

- 学校の要望に応じた連絡調整を基本的なスタンスとしているが、教員のニーズを理解したうえで、その実現に向けた意見出しや、自らのスキルを活かした実践も積極的に行っている。
- 推進員は探究学習の企画においてリーダーシップをとるが、個別の生徒の見取りやサポートは教員が行うなど、役割分担をしている。

◎専門性を活かして探究学習をコーディネート

- 探究学習に関する専門性を持つ教員がまだまだ少ない中で、大学で探究的な活動や地域課題解決・地域活性化等について学んだ専門性を活かした推進員のアドバイスが、探究担当の教員の強いサポートとなっていることに加え、教員間の足並みを揃えることにも寄与している。
- 自らが地域住民として持つネットワークを駆使して、学校に様々な連携先を紹介することができている。特に学校からアプローチがしにくい地域の個人や民間団体とのネットワーク構築において、推進員によるコーディネートが価値を発揮している。

◎推進員、教員、地域が一丸となるためのサポート

- 推進員の就任時、職員室に専用の席が設けられていたことで、教員集団の中に飛び込みやすくなった。
- 探究学習の統括役である教員が、推進員と同じ専門性のバックグラウンドを持っており、当初から推進員のスキルや考えに理解を示していたことが、推進員が伸び伸びと活動できたポイントであった。
- また教員側から、学校現場については初心者であった推進員に、学校のルールや必要な知識、求められている役割について明確に示したことで、相互理解の上でふるまうことができた。



教員

教員だけで探究学習を行っていた際には、「課題解決」と「問題解決」の混同など、教員ごとに授業の方向性が異なる等の課題がありました。推進員の専門的な知識のおかげで、大分足並みが揃ってきました。また、地域の方との連絡・調整においても、地域に軸足を持った推進員からの声掛けは、地域側からとても歓迎されており、非常に助かっています。

属性の異なる地域学校協働活動推進員(長年地域活動をされてきた方、自身のお子さんも特別支援学校に通われていた方)を2名配置し、子どもたちが学校卒業後に地域の中で暮らしていくことも見据えた地域連携を進めている。また、学内に設置されるコミュニティルームが、推進員の活動拠点となっていることに加え、保護者や教職員との関係性を構築することにも大きな役割を果たしている。



基本情報

配置人数	推進員2名
配置単位	学校専属
任期	1年
学校運営協議会	委員を兼務

◎活動概要

- ・ 長く地域活動に取り組んできた方1名、自身のお子さんも特別支援学校に通われていた方1名の計2名で活動に取り組んでいる。それぞれの持つネットワークや考え方が異なることが、活動の幅を広げている。
- ・ 教員の授業支援(ニーズに応じて地域とつなぐ)、保護者支援、卒業生支援、地域ボランティアの募集及びとりまとめ、地域情報の紹介など幅広い活動を行う。

<具体的な活動内容(一部抜粋)>

- ・ 「あおばエールプロジェクト(区内店舗が登録し、障害者の地域生活を応援)」の登録店舗への生徒によるインタビューを企画・調整
- ・ 保護者が参加できるアートプロジェクトやイベント、懇親会等の情報提供、保護者の相談対応
- ・ その他、様々な授業支援(田植え体験の企画、市の資源循環局への訪問調整、アートグループによる授業企画など)

◎活動時に意識していること

- ・ 生徒たちは卒業後、地域の中で暮らしていくが、それまでにできる限り地域の事を知り、地域社会に出ることに慣れ、学校外の人と関わることに慣れてもらいたいという思いを持ち地域連携に取り組んでいる。
- ・ 地域の人々にも、あおば支援学校のこと、障害を持つ子どもたちのことを知ってもらうことで、地域側の土壌を耕したいという思いもある。

◎コミュニティルームが集いの場に

- ・ 校舎1階の出入り口付近に設置されているコミュニティルームは、地域学校協働本部を兼ね、推進員の活動拠点となっている。また、介助員、保護者など、学校を訪れる様々な主体の交流の場となっている(飲食も可能)。この場所があることで、互いに顔の見える関係性が構築できていることに加え、新たな活動のきっかけにつながっている。
- ・ コミュニティルーム近くには、地域学校協働本部「あおばまる」のボードも設置されており、常に活動内容が更新されるなど、訪れた人々への情報共有の役割を果たしている。
- ・ 教職員も、推進員に相談したいことがある時には気軽にコミュニティルーム訪れている。

◎学校運営協議会の部会に参加

- ・ 推進員2名は学校運営協議会の委員を兼ねており、地域学校協働部会にも所属している。
- ・ 教職員も参加し、「学校の未来」について話し合う熟議を行ったところ、教職員が推進員と協働した様々な企画の実現可能性を強く感じるようになり、これをきっかけにコミュニティルームへの顔出しが絶えなくなった。



校長

お二方の持つネットワークが有難いことはもちろん、推進員の方がいらっしゃるおかげで、教職員の引き出しや発想が広がってます。
また、地域への広報的役割を担ってもらえている点も非常に有難いです。学校のことを発信することで、見学やボランティア参加にもつながっていますし、インクルーシブな社会の広がりにも貢献してくださっています。

～より多くのPTA会員の参加を目指す取り組み～

キーワード

総会紙面開催 / PTAだより等ホームページ公開 / 学校祭PTA活動 / 保護者進路研修会

取組概要

定期総会を書面開催とし、アンケート形式で一般会員の意見を求めた。また、ホームページに総会アンケート結果や役員会議事録等を公開し、情報共有した。またFormsを活用してPTA事業への参加を募った。進路講演会は、対面とオンラインを併用して実施した。

取り組みの詳細

定期総会書面開催（図や文字で説明）

昨年度の事業報告、会計報告、役員の承認、事業計画、会計予算案等について冊子で全会員に配布し、アンケート形式で承認を得ている。さらにアンケートでは、「書面開催」「大学等見学会」「進路講演会」について自由記述方式で意見を求めた。



学校祭でのPTA事業

食品バザーにおいて商品の仕入れ・準備・調理・販売・片付けを学校職員と協力して行った。



進路講演会

対面及びオンライン形式で7月に大手塾講師を招き行った。オンラインを希望する保護者が多く、自宅において生徒と一緒に参加できるようにした。



成果

- ・総会アンケートの回答数が過半数を超え、対面で実施していた総会の参加数を倍増させた。
- ・文化祭バザーは大盛況で、役員の60%以上が参加し、活発に活動できた。生徒たちには思い出に残る文化祭となった。
- ・自宅で生徒と保護者が一緒に参加できることで進路決定がより具体化できた。

課題や今後の取り組み

- ・PTA役員選出
- ・より多くの地域連携事業
- ・被災地支援

その他の取り組み紹介

- ・保護者大学等見学会
- ・通学マナー・挨拶運動
- ・年末の門松製作、販売の助成

所在地

岐阜県美濃市

全校生徒数

515名

地域の特徴

美濃市は日本の中央に位置し、天竺の名山長良川や緑豊かな自然と1300年の伝統文化が息づくまちです。江戸時代に築かれた伝統的な建物が多く残り、歴史的景観が保たれるなど伝統文化が息づくまちです。

学校の特徴

大正9年に村瀬藩城の開いた梅華村舎ゆかりの地に旧制「武義中学」として開校し、昭和23年に武義高等学校と改称された。本年度創立104年を迎え、卒業生も23000名を超える伝統校です。普通科とビジネス情報科の併設された単位制の学校で校訓「うまずおくせず たくましく」のもと文武両道を目指し、地域との連携、協力を図る「地域に根ざした学校」です。

組織構成

会長1名
副会長若干名（生徒指導、進路、学年、特活等）
顧問1名（校長）
書記2名
会計3名
学年代表3名
理事20名

担当課：（推薦課名）

岐阜県教育委員会
高校教育課

所在地

青森県八戸市

全校生徒数

291名

地域の特徴

本校学区は、八戸市の中心部に位置し、近隣には、大型商業施設等があるにぎやかな場所である。また、学区内には国道45号線が通っており、交通量も非常に多い地域である。

学校の特徴

本校は、昭和50年に創立し、令和6年度に創立50周年の節目を迎える。城小まつりや環境整備活動等PTA活動が活発であり、地域や保護者は学校教育への支援に対して非常に協力的である。

組織構成

- 会長 (1名)
- 副会長 (若干名)
- 幹事 (若干名)
- 会計 (若干名)
- 監事 (若干名)
- 学年委員長 (1～6年までの委員長の中から役員4名を選出)
- 各専門委員長
 - ・図書委員会
 - ・ベルマーク委員会
 - ・校外指導委員会
 - ・環境委員会
 - ・交通安全委員会
 - ・父親会
- 愛好会保護者会 (希望者)

担当課：青森県教育庁生涯学習課

心豊かな学びのために～学校・家庭・地域が一体となった「地域学校協働活動」～

キーワード

地域学校協働活動 / ジョブチャレ / 地域の祭り「八戸三社大祭」

取組概要

校内外の環境整備活動や、こどもたちの好奇心を高めるための取組を数多く企画するなど、学校と保護者、地域が連携、協働して、こどもたちのために、様々な活動に取り組んでいる。

取り組みの詳細

【健やかな育ちのために～校内外の環境整備活動～】

春の環境整備活動には保護者を中心に児童、教職員総出で、窓ふきや枝払い、草取りなどを実施している。また、「父親会」を中心に地域の協力を得て、生徒玄関前にLEDイルミネーションを飾った。屋上から2階まで広がった大きな光の樹をみて、多くの児童が心を癒され、喜んでいた。

【好奇心いっぱい！心豊かな学びを】

○子ども会と連携！「池の水、全部抜いてみない」「段ボールピザづくり」
地域の子ども会と連携し、中庭の池の水を全部抜いて、水生生物の調査をしたり、段ボールを使い、ピザづくりをする等、親子で好奇心溢れる取組を企画し、実施した。

○保護者の職業を体験！「ジョブチャレ」

「将来の夢」達成につなげてほしいという保護者の願いから、ワークショップ「ジョブチャレ」を開催した。児童からは「警察の仕事は大変だったけれどもやりがいがあった」「お母さんから教えてもらったので、わかりやすかった」等、様々な職業への関心や保護者に対する尊敬が含まれた感想が多くあった。

○伝統文化の継承！「お囃子体験会」

復活した「三社大祭」を盛り上げようと、学区の山車組と連携し、太鼓や笛などのお囃子体験を行った。本番の三社大祭に参加する児童、教職員も増え、地域と学校が協力し、地域を盛り上げようとする機運が高まった。



成果

- ・地域や保護者が教育活動の取組に触れる機会が増えたことで、学校・家庭・地域のつながりが強化され、こどもたちを地域で育てるという意識が高まった。

課題や今後の取り組み

- ・今後、会員数の減少が見込まれることから、これまでと同様の活動内容では実施が難しくなることが予想される。今後も継続して実施できる活動を検討していきたい。

その他の取り組み紹介

- ・地域の各団体との連携により、総合的な学習の時間のフィールドワークでの見守りや登下校の児童の安全を見守る活動を実施している。
- ・図工の彫刻刀や家庭科のミシンを使った学習時には、こどもたちが安心して取り組めるように学習サポーターが授業に協力している。

愛知県

岡崎市立梅園こども園父母と教師の会

親と子が共に育ち合う園作り～父親も子育てを大いに楽しもう～

キーワード

学校教育支援 / 家庭教育支援 / 社会教育支援

取組概要

父親、母親役員15名が連携を図りながら活動を行い、園児と楽しさを共有してきた。父親が会長を務め、男性役員が積極的に園活動に参加し、全父親に子育ての楽しさを伝え、子育て参加を促してきた。

取り組みの詳細

*園の職員と一緒に活気ある行事の実施

①父親役員の梅園武将隊結成と演舞披露

夏祭りに三河「葵」武将隊を招き、演舞を観た。のちに、おやじ梅園武将隊を結成し文化展で披露した。

3月お別れセレモニーでは父親役員、園児、他の保護者が一緒になって踊る場もてた。

②椎茸農家の協力の下、秋の収穫祭の開催

父親役員とボランティアの父親が園で収穫したサツマイモを焼いて園児をもてなし、椎茸農家により椎茸を狩る体験ができた。

③園児と共に遊ぶ、親子学級の実施

父親役員がアイデアを出し、内容を検討して小運動会（綱引き、借り物競走、体操転がしドッジ等）を行った。

④母親と父親で行うボランティア活動

園児に対して、母親と父親と一緒に絵本の読み聞かせを行ったり、夏祭りの縁日ごっこに取り組んだりした。



成果

・父親にとっても園は安心でき、家庭ではできない豊かな体験ができる有意義な場所として進んで足を運ぶようになった。

・父親同士の繋がりができ「子育てを皆で行っていこう」という雰囲気作りができつつある。

・おやじ梅園武将隊により、園児が武将、城、刀、槍等に興味関心を持ち年齢に合った形で「三河の歴史」に触れることができた。

課題や今後の取り組み

・2号認定児が増える中で園児の実体験を保障しながらも行事の内容や保護者の参加の仕方を検討していく。

その他の取り組み紹介

・市立3こども園の役員間での連絡会を開き、情報交換をしたり、市民駅伝にチームを組んで出場したりしている。

・ラジオFMおかざきに年2回出演して、活動内容について発信している。

基礎情報

所在地

愛知県岡崎市

全校生徒数

143名

地域の特徴

明治創立の歴史ある園であり、園運営に対する関心が高く協力的である。

学校の特徴

園教育や父母と教師の会の活動に対する保護者の関心が高い。今まで続けてきた様々な取組を続けたい思いが強い。

組織構成

会員加入率は100%である。役員は自薦他薦で選出し総会で承認される。会長・副会長・書記・会計・会計監査・顧問で構成され、OB役員もサポートをしている。全保護者の考えや思いを活動に反映することができるようにアンケートを実施したり、女性役員がこまめに各保護者に声を掛けたりして活動に参加したくなるような雰囲気や関係作りに努めている。

担当課：(あいちの学び推進課)

家族の絆を深め合う「ムギユツの日」、地域に広がる「朝の一声運動」

キーワード

家族のふれ合い／挨拶運動／見守り

取組概要

地域の特色を生かし、家族の絆を深める取組として、平成26年度より年6回「ムギユツの日」を実施している。また、毎月1回、「朝の一声運動」で、登校の見守りと挨拶運動に取り組んでいる。

取り組みの詳細

○ 「ムギユツの日」の取組

北浦小学校は、海沿いに面した港の近くに位置し、水産業に携わる保護者が多い。満月の日は漁が休みとなるため、家族が団欒を取りゆっくり触れ合える「ムギユツの日」を設定している。子どもたちに「いつも頑張ってるね」「あなたがいて幸せだよ」という気持ちを伝え、親子や家族でハグをし合い、絆を深め合う日として定着している。

○ 「朝の一声運動」の取組

登校時に、保護者が輪番で通学路に立ち、見守りとともに挨拶運動を行っている。児童から募集した標語を使って幟旗を作成し、地域にも設置して挨拶運動を広げている。

北浦小PTA令和6年度努力事項

子どもとふれあいを促すために、月に1回は「子どもをチョッと抱きしめよう」をしましょう。ほのめかしや褒め言葉をかけながら、ハグを習慣化できれば家族の絆もグッと深まると思います。ご家庭で実践しましょう。

月日	児童	保護者	学校の先生
5月23日(木)			
6月22日(木)			

チャレンジカード

チャレンジカードの目的
◎ 少しでもよくできた児童
○ 褒め言葉ができた
△ 褒め言葉がなかった
× 褒め、できなかった

児童の感想
○ のぼりばたの標語が大好き
△ 褒め言葉が大好き
△ 褒め言葉がなかった
○ 1学期

「ムギユツの日」チャレンジカード



児童から募集したあいさつの標語を使って作成した幟旗（のぼりばた）

成果

PTAが主体となった取組を通して、家庭、学校、地域が連携を図りながら子どもたちを育てていこうという意識や雰囲気が醸成されている。

課題や今後の取り組み

令和6年度に創立150周年を迎え、PTA、学校、地域が一体となってPTA活動を盛り上げようとしている。北浦小ならではの取組をさらに充実させていきたい。

その他の取り組み紹介

- 5月に「防災を考える日」を設定し、地域とともに取り組む避難訓練や、防災士を講師に招いての防災学習に継続して取り組んでいる。
- LINE、Instagram、マチコミメールなどのSNSを活用し、PTA新聞や参観日等の情報をデータで配信することで、素早く共有できるようにしている。
- 年間3回、保護者や地域にも呼びかけて、環境美化に取り組む「クリーン作戦」を実施している。

基礎情報

所在地

宮崎県延岡市

全校生徒数

94名

地域の特徴

北浦町は、延岡市の北東部に位置し、校区の東側には日向灘が広がる水産業の盛んな町である。海沿いに面しているため、地震、津波等への防災教育に力を入れており、5月には町全体での避難訓練に取り組んでいる。

学校の特徴

令和6年度に創立150周年を迎える歴史と伝統のある学校である。地域の自然や産業について学ぶ「ふるさと教育」の充実に向けて、地域、保護者、学校が連携した教育活動が実践されている。

組織構成

- 三役
会長1名 副会長2名 書記1名
会計1名 監事2名
- 運営委員会
三役7名、専門部員3名、学級委員長6名
教職員、顧問
- 専門部
バザー部 保健体育部 広報部
- 地区評議員会
地区評議員10名 地区担当教職員10名
- 専門部の主な活動
令和5年度に、広報部を中心に作成したPTA新聞が、延岡市のPTA新聞コンクールで最優秀賞、宮崎県で優良賞を受賞した。

担当課：宮崎県教育委員会
生涯学習課

「家庭教育支援チーム」の活動事例（令和5年度文部科学大臣表彰受賞活動より）

稲沢市家庭教育支援チーム「NPO法人ふぁみりい・らぼ」（愛知県）

【活動開始時期】 2010年6月

【構成員】 10人（保育士、社会教育福祉士、臨床心理士、助産師、愛知県子育てネットワーカー、管理栄養士 等）

【主な活動】

■おもちゃ図書「むすび」

おもちゃを通じた遊びの環境の中で、親が他の親子と交流し共に子育てを学び合い気軽に相談し合える仲間づくりを行う。



■フリースペース「tetote」

親の学びの会を実施し、保護者への労いと心を癒し、学び合いを行う。



■子ども若者食堂「てとてプラス」

不登校、引きこもり気味の家庭の交流の場となる活動を実施。



【効果】

- ・子どもの困った行動や、発達の心配、家庭での遊びや入園準備など質問される機会が増えている。
- ・同じような悩みを抱えている保護者同士が集うことで孤立・孤独感解消と、改めて我が子と向き合い、親子関係の回復や自分自身の成長を実感される等、成果も見られている。

等

大東市家庭教育支援チーム「つばみ」（大阪府）

【活動開始時期】 2016年4月

【構成員】 85人（SSW、民生委員、青少年指導員、元教員、PTA関係者、子育て経験者 等）

【主な活動】

■状況把握調査

公立小学校1年生と4年生の子供がいる家庭を対象に、子育てや家庭教育の困りごとなどを伺う調査を実施。

■アウトリーチ活動

家庭教育に関する状況調査の回答に応じて、小学校1年生の子供がいる家庭に家庭訪問又は電話連絡をする。

■「いくカフェ」の開催

テーマを決め、家庭教育について学び考えるきっかけとなる場の提供。



■子育て講演会・講習会の開催

広く市民に向け、家庭教育の重要性を啓発する機会とし、まちをあげて家庭教育を応援する機運を醸成する。



【効果】

- ・状況把握調査の結果を受け、保護者の悩みをリアルタイムに把握することができ、また、経年データを分析することで、悩みの傾向を把握することができ、「いくカフェ」や講演会等に活かすことができた。
- ・保護者の悩みや関心があるテーマに沿って「いくカフェ」や講演会を開催したことで、多数の方に参加していただいた。

等